

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19730560
研究課題名（和文） アメリカ合衆国におけるインクルージョン教育の実践理論と教授モデル
研究課題名（英文） Fundamental instructional theory and strategies of inclusive education in the United States
研究代表者
吉利 宗久（YOSHITOSHI MUNEHISA）
岡山大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：60346111

研究成果の概要（和文）：

本研究では、インクルーシブ教育の実現に向けて先駆的な取り組みを展開してきたアメリカ合衆国を研究対象に、その実践に不可欠となる理論的基盤と指導条件を検討した。とくに、インクルーシブ教育を進めるため保護者が求めている指導要因、および教員における実践の状況と意識の変容を探った。そして、インクルーシブ教育の授業場面に関する分析を進めている。

研究成果の概要（英文）：

The primary purpose of this study is to examine instructional theory and strategies towards the implementation of inclusive education in elementary and secondary school classrooms in the United States. First, this study investigated the attitudes and beliefs of parents and teachers. Second, effective instructional strategies for students who have a disability were addressed. Survey results indicated that teachers have positive attitudes towards inclusive education. Ultimately, we should re-examine the environmental features of inclusive education work of regular education teachers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	450,000	3,050,000

研究分野：特別支援教育学

科研費の分科・細目：4004

キーワード：インクルーシブ教育、アメリカ合衆国、

1. 研究開始当初の背景

近年におけるノーマライゼーションの進展に伴い、障害のある子どもを含むすべての子どもを可能な限り通常の教育環境で、適切に対応するインクルーシブ教育の思想と実践が世界的な趨勢となりつつある。しかしながら先行研究によれば、通常教育教員の多くは専門的知識や技能の不足を感じており、インクルーシブ教育の実践に消極的な態度を示すことが少なくない。すなわち、通常学級における障害のある子どもの支援体制の整備が急務な課題となっており、インクルーシブ教育を定着させる支援・指導の在り方が模索されている。

2. 研究の目的

わが国においても、インクルーシブ教育の発展経緯や理念・概念に関する研究が蓄積され、理論的な側面からの整理が進みつつある。しかしながら、インクルーシブ教育の基盤となる教育諸条件の集約には至っていない。そこで、インクルーシブ教育の実践効果を高めるための取り組みに着眼し、その方法論の一端を明らかにしたい。

3. 研究の方法

初年度には、インクルーシブ教育に関する第一次資料の収集に加え、研究課題の究明に最も適切なフィールド選択と指導ストラテジーの内容・手続きに関する予備的検討を進めた。

2年目は、インクルーシブ教育をめぐる状況の全体像を捉えた初年度の成果を踏まえ、

指導の有効性とそれに影響する実践的要因の整理を進めた。具体的には、保護者と教員のインクルーシブ教育に対する意識を検討し、指導に求められる条件と実践的課題の究明を進めた。

3年目には主として学校訪問を通して授業観察の場面を用いながら実証的な検証を試みた。それと同時に研究成果を整理し、学会で発表するとともに、論文として公にしていく作業を進めた。究極的には、3年間の研究を通して、インクルージョン教育の実践方策の基盤を捉える一方で、わが国における教育諸条件のなかでの応用可能なモデルを提案したいと考えている。

4. 研究成果

本研究課題の成果の一部は、次節に示した出版物に収録されている。

本研究を通して、インクルーシブ教育の基盤的な状況と動向を把握し、今後の課題を提起した。わが国では、インクルーシブ教育の展開に対する要求が高まる一方で、その実現に向けた行政的・実践的対応策の検討が進められている過程にある。この研究課題に関する先進国と位置づけられるアメリカ合衆国の取り組みを調査し、法的要求と実践における相互の課題が明らかになった。今後、より授業場面に特化した検討が必要であり、特別な教育的ニーズのある子どもを通常学級において支援するための指導法の効果をより綿密に分析することが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計4件）

1) 吉利宗久(印刷中)世界の障害児教育の動向を探るーサラマンカ声明以降のインクルーシブ教育の展開を中心として(アメリカ合衆国). 発達障害研究, 第32巻, 項数未定.

2) 吉利宗久(2009)アメリカ合衆国初等学校におけるインクルーシブ教育に対する意識とその変容ー経年変化と学校間相違の検討. LD研究(日本LD学会). 査読有, 第18巻, 300-309.

3) 吉利宗久他3名〔1番目〕(2009)発達障害のある子どもの保護者に対する支援の動向と実践的課題. 岡山大学教育学研究科研究集録. 査読無, 第141号, 1-10.

3) 吉利宗久他6名〔1番目〕(2007)アメリカ合衆国における障害のある子どもの教育権と個別教育計画ー特殊教育関連サービスの提供に関する係争事例の検討. 岡山大学教育学部研究集録. 査読無, 第135号, 121-126.

4) 吉利宗久, 水内豊和(2007)アメリカ合衆国におけるインクルージョン教育の成功要因に関する事例的検討ー障害のある子どもの親に対する面接調査からの考察. SNEジャーナル(日本特別ニーズ教育学会). 査読有, 第13号, 74-88, 172.

〔学会発表〕（計3件）

1) 片岡美華他4名〔4番目〕(2009)インクルーシブ教育の展開に即した教員養成システムの国際比較(シンポジウム). 日本特殊教育学会 第47回大会発表論文集, 749頁. 宇都宮.

2) 吉利宗久(2008)アメリカ合衆国初等学校におけるインクルーシブ教育に対する意識とその変容ー追跡調査の予備的検討. 日本特殊教育学会 第46回大会発表論文集, 159頁. 鳥取・米子.

3) 洪浄淑他6名〔6番目〕(2007)欧米インクルーシブ教育のインパクト(シンポジウム). 日本特殊教育学会 第45回大会発表論文集, 35頁. 神戸

〔図書〕（計3件）

1) 吉利宗久(2009), ミネルヴァ書房, 特別支援教育の現状・課題・未来(第一部「特別支援教育・特別なニーズ教育の動向」第4章「アメリカの特別ニーズ教育をめぐる」). 57-65.

2) 吉利宗久(2009), 明石書店, 特別支援教育を創造するための教育学(第2章「特殊教育制度の意義と改革」第3節「諸外国の特殊教育制度とその改革」2「米国の特殊教育制度の改革」) 78-86.

3) 吉利宗久(2007), ミネルヴァ書房, 特別ニーズ教育(第5章3節「アメリカ合衆国の特別ニーズ教育の動向」). 200-206.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

特記なし

○取得状況(計0件)

特記なし

〔その他〕

特記なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉利 宗久 (YOSHITOSHI MUNEHISA)

岡山大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：60346111